

# はやま もり 麓山の杜みどり通信

発行元 21世紀記念公園麓山の杜管理事務所  
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17  
TEL924-2194 FAX924-2195

## 樹木も冬の装いです



燃えるようなヤマモミジ



### 【お知らせ】



次回の「記念樹交付とみどり講習会」は、  
平成26年3月9日（日）です。



「麓山の杜ホールコンサート」を開催します。

12月8日（日）ウクレレ愛好会  
（プアオリノ）

12月15日（日）弦楽四重奏

NOA スtringカルテット



詳細については事務所にお問い合わせ下さい

### ガーデニング ワンポイント

## 植物も寒がっています！

今年も余すところひと月となりました。現在の私達は新暦で一年を過ごしている訳ですが、植物はどんな暦のサイクルで生きているのでしょうか？ 休眠期に入り来春を待っている物やもう少しで目覚めるもの、今を盛りと活動しているものなど植物により違います。

【水やり】 これからは温度も下がり乾燥もしにくくはなりません。雨が少ない時や植え替えた場合は必要ですから乾いてきたらたっぷりと樹幹全体にあげます。あげた水が凍らないような時間帯にします。乾き具合は土の表面を見て判断します。腐葉土でマルチング（土の表面に敷き並べる事）をすると乾燥や寒さを防ぐことができます。水やりは水分を根に届けると同時に新鮮な酸素を供給するのが大きな目的です。根腐れとは根に酸素が不足し窒息の状態のことです。

【肥料】 多くの樹木はこの時期は肥料を必要としません。

翌春の2月頃に寒肥として施します。ただ草花などを植え込む時には必要になります。大きく丈夫に育てるための元肥です。

【病害虫防除】 針葉樹につくケムシで夏に発生したマツカレハは樹皮や混み合っている枝の所で越冬します。見つけしだい補殺します。各種のカイガラムシやアブラムシも樹木に発生しています。冬季に使用できる薬剤（マシン油乳剤）があり効果もあります。病気に罹った葉や落ち葉をそのままに放置しておくとも病原菌の元凶になり易く、害虫の越冬場所にもなってしまいます。集めて処分する事が美観と病害虫防除のうえで大切です。そのままにしておくとも腐葉土になるからと思われるかもしれませんが、土壌改良の時は完熟腐葉土を撒くことをお勧めいたします。病害虫防除で大切なのは



モデル花壇

21世紀記念公園 麓山の杜「みどり通信 No.90」 発行日：平成25年11月26日  
原因そのものを増やさない事です。

**【剪定】** これからの時期の常緑樹は弱めの剪定をします。その後の芽の吹きが悪くなるからです。落葉樹の強めの剪定は、来春に芽が動き出す前までの落葉時期が適期です。しかしカエデ類は切り口から樹液が年明けには出てきますので早めに済ませます。樹液が出ることによって枝枯れしたり樹勢が弱まりカミキリムシなどの被害に遭いやすくなります。ツルで伸びる果樹類も年内に済ませます。マツ類はこれからの時期にもみあげ（古葉などを抜き取る）や混み合っている枝を間引きます。そうすることで雪による枝折れを防ぎ、またマツを弱らせることなく綺麗な姿にして正月を迎えることができます。マツの枝を剪定した時に切り口からヤニがすぐ出てくる時はそのマツが健康とされます。ヤニ（樹脂）はマツにとっては健康のバロメーターです。剪定は自分（観賞する側）の都合だけではありません。それぞれの樹木に合ったやり方で行います。

**【植え替え】** 常緑樹はこの地域では春先が最適期となります。落葉樹は厳寒期を除けば晩秋からが適期になります。条件が悪くても枯れにくいようです。何事も適期を逃さないで作業する事が大事です。但しサルスベリやザクロなどの暖地性の樹木（春の芽の吹く時期が遅い種類）はこれからの時期はいくら落葉樹と言っても良くありません。来春まで待ちます。カエデ類は年内に行います。理由は剪定と同じ事が起こるからです。秋植えの球根や草花は12月に入ると遅すぎますね。

**【防寒】** 植物には寒さに対する抵抗性の強弱があります。露地に植えられたパンジーやピオラは葉を縮こませ越冬しますがハボタンなどは強い霜でやられてしまいます。ガーデンシクラメンもこの地域では戸外での越冬は難しいですね。シマトネリコやオリーブも枯れはしませんが相当に痛みます。その対処の方法としてはその植物の耐寒最低温度になる前に取り込むことです。露地植えの場合はベタ掛けシートで包み込み根元を腐葉土などでマルチングをすることです。ベタ掛けシートがなぜ良いのかという事は寒さや風は遮り、しかし光は透すからです。ここがポイントです！植物は光合成ができなければ生きていけないのです。



11月17日に公園内の「樹木観察会」を行いました。上記の話題のほかに園内の紅葉を愛でながらそのメカニズムやサクラの樹勢判断について、また芝生に設置してあるモデル花壇の色合いについてなど、天候にも恵まれ好評に終わりました。

麓山の杜では、このほかにもいろんな企画がありますので、是非お越しください。

## 《街で見かけた植物》

### 椿（曙・アケボノ）

（ツバキ科ツバキ属）常緑低木～高木  
ツバキ属の植物は日本を含めた東アジアから東南アジアにかけて多くみられます。品種の数は驚くほど存在しています。私達の身近にもヤブツバキが自生しています。本種は11月から4月にかけて薄桃色の大きな花を開きます。茶花としても用いられます。名前のおりに新春を彩るふくよかな銘花です。

